

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第489号 平成26年1月・2月



『西多摩医師会館』 森本 晋

目

次

	頁		頁
1) 年頭の挨拶	横田卓史 … 2	14) 連載企画 今年の漢字	湯田 淳 … 22
2) 感染症だより	西多摩保健所 … 3	15) 秋川救急隊の活躍!!	横山美貴 … 23
3) 新医師会館落成によせて	横田卓史 … 5	16) 糖尿病医療連携検討会からの メッセージ	野本正嗣 … 24
4) 西多摩医師会館完成祝賀会	奥村 充 … 6	17) 第12回西多摩医師会臨床報告会の ご案内及び演題募集について	学術部 … 26
5) 平成25年忘年・クリスマス会	朱膳寺洋文 … 9	18) 学術講演会予定	学術部 … 26
6) 都道府県紹介	三島淳二 … 10	19) 理事会報告	広報部 … 27
7) 学術部インフォメーション	学術部 … 12	20) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 33
8) 西多摩心臓病研究会報告	清水茂雄 … 16	21) 表紙のことば	森本 晋 … 36
9) 西多摩医師会市民健康講座	土田大介 … 17	22) あとがき	土田大介 … 37
10) 多摩地区医師会懇話会	奥村 充 … 18	23) 囲碁大会ご案内	広報部 … 37
11) 在宅医療委員会	進藤 晃 … 19	24) お知らせ	事務局 … 38
12) 専門医に学ぶ	濱祐一郎 … 20		
13) 広報だより 小旅行	松崎 潤 … 22		



年頭の挨拶

西多摩医師会 会長 横田 卓史

新年おめでとうございます。会員の皆様には恙無く新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。昨年は年明け早々に日医副会長の羽生田俊先生、武見敬三先生の参院選立候補表明があり日医以下医師会の全面的な支援活動が始まりました。会員の先生方の応援の甲斐あって見事両先生とも当選されたことは、消費税の値上げや社会保障の一体改革、TPP問題、医療介護保険の同時改定を4月に控えて我々医療関係者にとって大変喜ばしいことでした。11月に新医師会館にて開かれた国政報告会において武見先生から「健康長寿社会実現のため日本の医療を守る」という力強いお言葉も頂きました。台風による災害にも見舞われた年であり、伊豆大島やフィリピンレイテ島の災害は東日本大災害の生々しく悲惨な惨状を彷彿とさせるもので、心からお見舞い申し上げ被災地の一刻も早い復興を願わずに居られません。また西多摩医師会においても記念すべき一年でした。4月に定款をはじめ諸規定を改定して一般社団法人西多摩医師会として新たなスタートを切り、6月には創立100周年記念式典を催し、10月には念願の新医師会館に移転、11月に落成記念祝賀会を盛大に開催することができました。これも偏に会員の皆様のご理解と、役員、事務職員の皆様の御協力の賜物と心より感謝申し上げます。これらの行事を経るごとに、行政や市民の医師会に対する期待の大きさと果たすべき責任の重さを改めて実感した次第です。在宅医療連携、認知症疾病連携、災害医療対策等はまだ緒に就いたばかりです。これらの課題を新医師会館において着実に進めて行かなければなりませんので皆様の御理解御協力をお願い致します。最後に今年一年のご多幸を心より新年申し上げ、新年の御挨拶とさせて頂きます。

感染症だより

〈全数報告〉

第40週(9.30-10.6)から第44週(10.28-11.3)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 10件

(肺結核4件、無症状病原体保有者6件)

(三類感染症) 腸管出血性大腸菌感染症 4件

(四類感染症) レジオネラ症 1件

(五類感染症) アメーバ赤痢 1件、ウイルス性肝炎 1件、HIV 1件、梅毒 1件、風しん 1件

〈管内の定点からの報告〉

	40週 9.30～10.6	41週 10.7～10.13	42週 10.14～10.20	43週 10.21～10.27	44週 10.28～11.3											
	RSウイルス感染症	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	不明発疹症	MCLS	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
	1	1		2	6											10
					1											3
	1															
	11	1		3												5
	15	16	16													14
	2	2														2
	10	6		8												6
				1												
	4	4		2												1
	1	1	1													1
	2	5	3													2
	47	36	37	42	42											

基幹定点報告対象疾病（細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く））

マイコプラズマ肺炎 2件（1～4歳）

〈コメント〉

マイコプラズマ肺炎

Mycoplasma pneumoniae の感染によって発症する肺炎です。

好発年齢は、6～12歳の小児であり、小児では発生頻度の高い感染症の一つです。患者の咳のしづきを吸い込んだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。潜伏期は長く、2～3週間とされています。異型肺炎像を呈することが多いです。頑固な咳嗽と発熱を主症状に発病し、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されています。1年を通じてみられ、冬にやや増加する傾向があります。

抗菌薬による化学療法が基本であるが、ペニシリン系やセフェム系などのβ-ラクタム剤は効果がなく、マクロライド系やテトラサイクリン系、ニューキノロン系薬剤が用いられる。

アメーバ赤痢

原虫である赤痢アメーバ（Entamoeba histolytica）を病原体とする大腸炎で、粘血便をはじめとし、下痢、テネスマス（しぶり腹）、腹痛などの赤痢症状を示すものです。

感染者の多くは発展途上国に集中しています。先進国で感染率が高い集団は男性同性愛者、発展途上国からの帰国者、知的障害者施設収容者などです。なかでも、男性同性愛者間に流行する赤痢アメーバ感染症は性感染症であることが多く、他の性感染症を合併していることが少なくありません。

感染症だより

〈全数報告〉

第45週(11.4-11.10)から第49週(12.2-12.8)の間に、管内医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 8件

(肺結核3件、結核性胸膜炎1件、結核性リンパ節炎1件、無症状病原体保有者3件)

(四類感染症) レジオネラ症 1件、つつが虫病 1件

〈管内の定点からの報告〉

	45週 11.4～11.10	46週 11.11～11.17	47週 11.18～11.24	48週 11.25～12.1	49週 12.2～12.8
RSウイルス感染症	7	7	3	7	2
インフルエンザ		1	5	1	5
咽頭結膜熱	1	2	1	4	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	9	3	9	6
感染性胃腸炎	15	19	33	47	92
水痘	4	2	2	2	19
手足口病	2	7	1	3	1
伝染性紅斑					
突発性発しん	2	4			3
百日咳					
ヘルパンギーナ	3	4		1	
流行性耳下腺炎	2	3		1	2
不明発疹症					
MCLS					
急性出血性結膜炎					
流行性角結膜炎					
合 計	37	58	48	75	131

基幹定点報告対象疾病〈細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)〉

マイコプラズマ肺炎 4件(1～4歳1件、5～9歳3件)

〈コメント〉

① 感染性胃腸炎の流行警報について、都はプレス発表をしました。

都内の患者報告数が流行警報基準を超えたため、東京都では12月5日にプレス発表を行いました。

西多摩保健所管内、都内とも定点当たり報告数は4週続けて増加し、第49週は管内11.50人、都内21.49人です。例年の傾向からみると、都内はピークを迎えたと考えられます。

管内の定点当たり報告数はピーク時の半分程度ですが、保育園・学校・社会福祉施設等の集団発生の報告は第47週から増加しており、引き続き注意が必要です。特に、初発の有症状者が確認されたら、速やかに拡大防止対策を実施していくことが重要となります。

② インフルエンザは都内で昨年同様の広がりを見せています。

西多摩保健所管内の第49週の定点当たり報告数は0.36人と増加し、都内は0.68人で昨年の0.63人とほぼ同じです。都内では流行開始の目安となる1人まであとわずかです。全国的には、11道県で定点当たり報告数が1人を超みました。(「インフルエンザ情報」は東京都健康安全研究センターのホームページに掲載)

予防のポイントは、外から帰ったときや、咳・くしゃみを手でおおったときの「手洗い」、咳やくしゃみをする時はティッシュやマスクを口と鼻にあて、他の人に直接飛沫がかからないようにする「咳エチケット」です。

学校保健安全法では、インフルエンザによる出席停止の期間について、「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては、3日)を経過するまで。」としています。



新医師会館落成によせて

会長 横田卓史

平成 25 年 10 月待望の新医師会館が東青梅に完成し、21 日より業務開始、11 月 2 日に内覧会と完成祝賀会が滞りなく開催されましたことは、会員の皆様におかれましても大変喜ばしいことと存じ上げます。この機に際しまして落成までの経緯について振り返ってみたいと思います。明治 45 年 3 月西多摩郡医師会が発足し今年 100 周年を迎えて 6 月 29 日に 100 周年記念祝賀会を開催致しましたが、昭和 22 年 12 月社団法人西多摩医師会が設立され、同 32 年 3 月自前の医師会館を建設すべく、青梅市西分に候補地を求める総会決議がされました。この間医師会事務所は、大河原医院、大越眼科医院、福島産婦人科医院、鈴木眼科医院、近藤医院、三枝医院と先輩会員の診療所に置かれ、最後は勝沼 2 丁目の羽村源一方に置かれていたそうです。旧医師会館は同 33 年 7 月着工、11 月落成しその後増改築を経て現在に至っていました。平成 10 年故宮川栄次会長の時、今後の会館の在り方について諮問があり会館問題検討委員会が設置され、委員長は故内山大先生、委員は新井、高村、稲垣、樋口、込田、卞、進藤、森本、瀬戸岡の各先生方で、同 11 年 10 月答申が提出されました。要約すると、会館の設置場所は会員密度や地理的条件から羽村か小作辺りが最適であるが、会員に新規の負担を求めないことや、医師会の経済的事情を勘案すると現在地での建て替えが現実的という結論がありました。

その後会館の老朽化が進み、平成 17 年真鍋勉会長の時、新会館建設の具体的方針について諮問があり会館建設検討委員会が設置され、委員長は小林杏一先生、委員は大堀、込田、田坂、田村、星野、葉山、馬場、丸野の各先生方と横田でした。答申は、同 18 年 3 月提出され、結論は前検討委員会と同様に会員に新規負担を求めない条件では移転は難しく現在地での建て替えが妥当で、建設時期は医師会創立 100 周年を迎える平成 25 年までが望ましいとのことでありました。この答申を受けて同 18 年 5 月 26 日の定時総会において、会館建設準備委員会の設置が承認され、委員会設置要綱において委員会を公開とするための傍聴が認められました。委員長は横田、副委員長中野和広先生、委員は西村、松原、故宮川、故内山、小林、湯川、川辺、小机、田坂、新井、田原の各先生方でした。

同年 7 月から 4 回の委員会を経て同 11 月中間答申が提出され、その時点で小作台 3 丁目に地積 771 m² の優良な土地が売りに出されており、土地購入会館新築移転を決定し、答申結果は理事会においても承認されたところでした。その後総会承認に向けての準備作業中に、残念ながら所有者の都合で突然他者に売却をされてしまうという不測の事態を生じてしまいました。同 19 年 3 月の第 5 回委員会において会館候補地を公募することに決定し発表しました。価格は 1 億円から 1 億 2 千万円、面積 200 坪以上、期限を平成 22 年 2 月末と致しました。第 8 回委員会までに 6 件の候補地が検討され最終的に東青梅 3 丁目の青梅市所有の土地が最有力とされていましたが、その後同じく青梅市所有の東青梅 1 丁目のケミコン精機跡地が候補地の可能性ありとのことで情報収集の結果、候補地としては最適と判断されたため、同 22 年 12 月青梅市に土地購入の要望書を会長名で提出しました。同 23 年 4 月小机敏昭先生が新委員長に互選され第 9 回委員会が開かれ、青梅市に提出する新会館のビジョンについて検討されました。委員は西村、松原、故宮川、真鍋、野本、田坂、山川、川間、蓼沼、川辺、田原の各先生でした。5 月に委員

会で承認された新会館ビジョンを青梅市に提出、この間会員に対し実施された「医師会館建設に関するアンケート」や「若手会員の意見を聴く会」の報告と検討がなされ、11月の第11回委員会で、東青梅1丁目の土地を購入し新会館を建設、購入金額は9千万円を超えない額、単価については今後交渉して行くことが決まり、理事会にて承認。12月6日会員に対し「新会館建設予定地の購入に係る説明会」を医師会館で開催、同24年1月27日の臨時総会において、東青梅1丁目の土地を購入して新医師会館を建設する件と現医師会館所在地を売却する件が承認されました。この決定を受けて第12回から14回の委員会で新会館の規模や設備等の基本設計が検討され、設計業者2社の中から松村茂睡建築設計室が請け負うことになりました。この間7月24日に青梅市と土地売買契約が無事に終わり、翌25年1月に建設業者2社から佐久間建設が選ばれ3月に契約致しました。3月12日地鎮祭を行い本格的に建設工事が始まり10月に完成、19,20日の2日間で引っ越し、21日より事務局の業務が開始されました。以上簡単にこれまでの経緯を振り返ってみましたが、最初の検討委員会から15年の歳月をかけ、委員としてお名前を挙げさせて頂いた会員は30名以上、候補地も10か所以上を数えました。

会員の皆様には各地区会で御検討頂き、様々な御意見を給わりましたが、この広い西多摩で何処に会館を建てるかという悩ましい問題が、落ち着くべき所に落ち着いたような気がして誠に感慨深いものが御座います。改めて会員の皆様のご理解とご協力に感謝を申し上げるとともに、新会館において西多摩の地域医療にこれまで以上に全力を挙げて取り組むことをお誓いして筆を置きます。

平成25年12月



西多摩医師会館完成祝賀会

平成25年11月2日(土)西多摩医師会館完成祝賀会が行われました。

はじめに、西多摩医師会館で内覧会が行われ、その後、青梅スイートプラムに会場を移し、祝賀会を行いました。当日は、37名の来賓と44名の西多摩医師会会員の出席があり、盛会となりました。

祝賀会は、野本正嗣西多摩医師会理事の司会で進められました。

はじめに、横田卓史西多摩医師会会长の挨拶があり、西多摩医師会館完成までの長かった経過が説明されました。次に、野中博東京都医師会会长(代読:近藤太郎東京都医師会副会長)・竹内俊夫青梅市長・井上信治衆議院議員・野村有信都議會議員・並木心羽村市長から来賓の挨拶がありました。続いて、濱中啓一青梅市議會議長の発声で乾杯となり、歓談となりました。アトラクションは、「ラメール」による生演奏がありました。その後、真鍋勉西多摩医師会理事の中〆、最後に、野本正嗣西多摩医師会理事が挨拶され閉会となりました。

文責: 奥村 充

西多摩医師会館完成祝賀会 次 第

司 会 野本 正嗣 (西多摩医師会理事)

内覧会

1. 会長挨拶

横田 卓史

祝賀会

1. 会長挨拶

西多摩医師会会長

横田 卓史

1. 来賓挨拶

東京都医師会会長

野中 博 様

青梅市長

竹内 俊夫 様

衆議院議員

井上 信治 様

都議会議員

野村 有信 様

羽村市長

並木 心 様

1. 来賓紹介

1. 乾 杯

青梅市議会議長

濱中 啓一 様

1. 中 メ

西多摩医師会理事

真鍋 勉

1. 閉会挨拶

西多摩医師会理事

野本 正嗣

御来賓出席名簿（敬称略）

団体役職名	氏 名	団体役職名	氏 名
衆議院議員	井 上 信 治	東久留米市医師会会長	山 口 規 夫
都議会議員	林 田 武	西東京市医師会副会長	中 澤 宏
都議会議員	野 村 有 信	稻城市医師会会長	木 村 繁 成
都議会議員	島 田 幸 成	八王子市医師会会長	孫 田 誠 三
青梅市長	竹 内 俊 夫	日野市医師会会長	野 田 清 大
福生市長	加 藤 育 男	多摩市医師会会長	田 村 豊
羽村市長	並 木 心	立川市医師会会長	阿 川 忠 郎
あきる野市長	白 井 孝	小金井市医師会会長	齋 藤 寛 和
瑞穂町長	石 塚 幸 右 衛 門	西多摩保健所長	木 村 博 子
日の出町長	橋 本 聖 二	青梅消防署長	杉 田 克 明
奥多摩町長	河 村 文 夫	福生消防署長	湯 浅 達 也
檜原村福祉健康課長	高 取 弥 三 郎	秋川消防署長	栖 原 達 雄
青梅市議会議長	濱 中 啓 一	奥多摩消防署長	長 沢 享
東京都医師会副会長	近 藤 太 郎	青梅青色申告会長	角 田 俊 一
調布市医師会会長	小 田 切 光 男	西多摩歯科医師会会長	高 取 真 史
武藏野市医師会会長	渡 辺 滋	西多摩薬剤師会会長	針 生 曜 郎
三鷹市医師会会長	若 林 研 司	西多摩接骨師会会長	福 島 良 孝
府中市医師会会長	赤 須 文 彰	顧問弁護士	堀 克 己
町田市医師会会長	川 村 益 彦		

会員出席者名簿（敬称略・順不同）

氏 名	病医院名	氏 名	病医院名
《羽村地区》		《福生地区》	
横 田 卓 史	横田クリニック	諸 角 強 英	公立福生病院
真 鍋 勉	真鍋クリニック	松 山 健	〃
山 川 淳 二	山川医院	高 村 宏	高村内科クリニック
横 内 正 利	いざみクリニック	宮 川 三樹 夫	大聖病院
稻 垣 壮太郎	稻垣整形外科	大 野 芳 裕	大野耳鼻咽喉科
奥 村 充	小作駅前クリニック	會 澤 義 之	あいざわ整形クリニック
《福生地区》		《日の出地区》	
宮 城 真 理	内山耳鼻咽喉科医院	蓼 沼 翼	日の出ヶ丘病院
波 多 野 元 久	波多野医院	馬 場 真 澄	馬場内科クリニック
玉 木 一 弘	福生クリニック		

氏名	病医院名	氏名	病医院名
《瑞穂地区》		《青梅地区》	
小林 康弘	石畠診療所	笛本 隆夫	笛本医院
高水 松夫	高水医院	笛本 光信	〃
川間 公雄	みずほクリニック	酒井 淳	酒井医院
《あきる野地区》		森本 晉	大河原森本医院
小机 敏昭	小机クリニック	足立 陽一	足立医院
朱膳寺 洋文	朱膳寺内科クリニック	吉野 住雄	吉野医院
近藤 之暢	近藤医院	丹生 徹	丹生クリニック
植田 宏樹	秋川病院	小林 晉佳	青梅成木台病院
《青梅地区》		川上 正人	青梅市立総合病院
大堀 洋一	大堀医院	土井 京子	なごみクリニック
江本 浩	梅郷診療所	《檜原地区》	
太田 豊	青梅かすみ台クリニック	田原 邦朗	檜原診療所
小林 杏一	小林医院	《奥多摩地区》	
中野 和広	中野クリニック	川辺 隆道	川辺医院
坂元 龍	坂元医院	片倉 和彦	双葉会診療所
野本 正嗣	野本医院		



平成25年 西多摩医師会 忘年・クリスマス会。



忘年クリスマス会が平成 25 年 12 月 4 日 (水) 昭和の森、フォレストイン昭和館で開催されました。

平日のお忙しい、寒い中、子供 12 名を含む 104 名の多数の方々に出席して頂きました。

開宴挨拶では横田卓史会長より西多摩新医師会館が 10 月に完成、現在医師会員を中心に活用されていますがコメディカル等の関係者も積極的に講演等に利用して下さい、又本日のクリスマス会を十分に楽しんで下さいとの挨拶でした。次に衆議院議員 井上信治先生の秘書日原省吾様を御紹介し、この後公立阿伎留医療センター院長 荒川泰行先生の乾杯の音頭でパーティが始まりました。

しばしあ歓談の後、子供達へのクリスマスプレゼントに続き出席者が楽しみにしているアトラクションの時間になりました。今日はコミカルなマジシャンとむやむくんのマジックで子供達も一緒に芸に参加し大いに盛り上がりました。次の賞品抽選会ではノンフライヤー（熱と空気で揚げる調理器）、フローズンアイスクリームメーカー、炭酸水メーカー等、キッチンで使われるものと、ねむり時間計、カロリースキヤン（活動量計）、アルコールチェッカー等、健康器具を中心に計 18 品揃え大変好評でした。そろそろお開きの時間となり閉宴挨拶にて 2 時間余りの楽しいパーティーは無事終了となりました。

尚、会の準備に御協力下さった医師会事務局の皆様に感謝申上げます。

(文責：福祉担当 朱膳寺洋文)



都道府県 紹介



第11回 長崎県

青梅市 みしま泌尿器科クリニック 三島 淳二

一昨年、坂元龍先生の破天荒な長崎時代の紹介文が記憶に新しいところですが、あれつ、また長崎かよ？と思われる方も多いでしょう。実は私も長崎県の出身で、会員は自分だけであろうと思っていたのですが、私の知る限り生まれは長崎、育ちは東京のハンディ8の某皮膚科の先輩も含めるとナント7人のA会員長崎県人がこの西多摩医師会員であります。今では県人会なるものも存在し、定例会、ちゃんぽん会コンペなどを通してそのたびに懐かしい言葉、妙な地方の習慣、当時の出来事を九州に帰省することなく語らうことができ、故郷への想いを風化させない強いコミュニティとなっております。その会員の多さゆえ1年半くらいで再び故郷長崎の紹介となつたことを読者先生方にご理解頂いたところで……。

ご存じのとおり長崎は日本列島の最果て一番西の地に当たります。そんな田舎から東京にやって来たつもりが、青梅も田舎でビックリ。本来なら下っ端の私が、長崎県の話をするのはあまりにも僭越なのですが、紹介に不備があった場合には県人会にてお叱りを甘んじてお受けすることでお許しを……。

それでは、ご覧になった先生方が一度は行ってみたいなあーと思えるようプレゼンしたいと思います。

長崎県は九州の西北部にあり、東京まで直線距離で967kmであるのに対し、上海（中国）まで850km、対馬から韓国の釜山まではわずか49.5kmという距離にある。（竹島や尖閣諸島よりもはるかに近く、異国に見える丘展望

台からは釜山が見えるようです。）

県のデータとして、人口1,396,420人（全国27番目）、（因みに東京都総人口13,282,271人）毎年減少の一途をたどっています。

何か1番のものはというと、島の数／1位（島数971で全国一。島暮らしが好きなら候補地がてんこ盛り）、海岸線の長さ／2位（約4,200キロ。1位北海道の北方領土を除けば大差で1位）、漁港の数、温泉の放熱量、びわの収穫量、路面電車は日本最古、電車運賃の安さ100円、年間タクシーレート1位、バス代2位（いずれも坂が多く土地が狭いため駐車場の確保が困難となり自家用車を持たない家庭が多い）、カステラ購入額、砂糖の消費量も1番、犯罪発生率全国最下位、長崎は今日も雨だったという歌がありますが降水量は12番目みたいです。（調べてみるとあまりパッとせず自慢できるものは少なかったので私の知る素晴らしい事柄に展開していきます。）

調べたところ、県民性は鎖国中だった江戸時代唯一世界とつながっていた場所で、3方を海で囲まれていることもあり開放的な県民性といわれています。早くから外国文化に触れており、食べるものにも困らなかつたため、おおらかな性格の人が多い傾向です。西洋文化に感化されて身分の上下を気にする人もあまりいません。開放的な県民性ゆえ行動力や忍耐力には欠けるともいわれます。（なんでんよかばい、そいでんよかばい、まあよかたい気質）

長崎についてたらまず、空港での楽しみ方は、

1階でちゃんぽん、皿うどん（パリパリ麺でお酢でなく備え付けのソースをつけてお召し上がりください）をいただきそれぞれの観光地へ繰り出して下さい。帰りは2階のお寿司屋さんで壱岐焼酎を飲みながら、近海物のネタを頂くのがお勧めです。特にイイダコ、アラカブ（かさご）の味噌汁、大村湾のナマコ（12月～2月）、あら（クエ）などは満足いただけるのでは。

観光に時間がある方は五島や対馬をお勧めします。しかし、地元の大変な問題としては残念なことに特に対馬へ観光に行く人はここ数年激減しています。それでも豊かな自然と日本の最果てを体感してみてはいかがでしょう？

一般的には、市内観光ではグラバー園、オランダ坂、出島、坂本龍馬ゆかりの地、世界遺産候補？軍艦島、大浦天主堂などがありますが、私は、幼少期によく遊んだ爆心地に近い浦上天主堂がお勧めです。一度は原爆で倒壊しましたが1980年に建て直されました。原爆とキリスト教弾圧という2つの歴史を目當たりにすることができます。その近くには如己堂、医師であり作家でもあった永井博士記念館があります。2畳ほどの小さな部屋ですが、この章ではとても語ることのできない多くの軌跡があり、きっと心を打たれることでしょう。是非お立ち寄りください。

ロケーションが良いところは稻佐山です。長崎は坂が多く、すり鉢状になった地形なため斜面に所狭しと肩を寄せ合うように立ち並ぶ家々はこちらではちょっと信じがたい光景かと思います。特に五島灘に沈む夕陽は美しく、晴れた日には五島列島が見えることもあります。夜景はとても有名なのですが、あまり遅い時間だと不況の昨今、市街地の灯りが少なくなりますので夕刻からがよいかと……。

長崎の特別な日といえば

「原爆の日」毎年8月9日、午前11時2分になると街中の教会の鐘が鳴り響き市民は黙

とうを捧げます。その間は街が水を打ったように静まりクマゼミの鳴く音だけが一層大きく聞こえます。長崎から離れて暮らしたとき、11時2分に鐘もならず誰も黙とうせず、普通に街が動いているのにちょっと温度差を感じたものです。

「精霊流し」地元が生んだスター？さだまさしの歌ではしんみりとしたセレモニーのようですが、実は賑やかなお祭りのようなもので300隻もの精霊船が街を練り歩き時には10メートル級の船を引きずり回し鐘を打ちながら、無数の爆竹や打ち上げ花火を道端や取り囲む沿道の見物人に放り投げ「ドーイ、ドーイ」と市中心街を練り歩きます。毎年8月15日ですので都合があえばどうぞ寄ってみては。因みにその日は火傷と目の異物で夜間の患者が激増するそうです。

「長崎くんち」10月7, 8, 9日これも長崎市民が心高ぶるお祭りの一つです。小中学校は休校となり、TV中継ありで全国的に有名なものと思っていましたが、こちらでは全く知られていない祭りでガッカリ、しかし、いかにも異国文化が混在したような祭りで楽しいですよ。

名物料理は、皿うどん、ちゃんぽん、しつぼく料理、トルコライスなど和洋中が折衷されています。と言われていますが、なんといっても新鮮な魚でしょう。一年通して種類も豊富、魚好きの方を決して裏切れません。また、近年長崎和牛（昨年の総理大臣賞）なるものも有名で肉好きの方も然りです。新地には中華街（横浜と比べて混雑していない）がありリーズナブルな本格中華が味わえます。昼はちゃんぽん、夜は新鮮な魚でいかがでしょうか？

ご覧になった方が是非行きたくなるようにと書き始めたのですが文才もなく終わりが近づいてきました。伝えたいことの半分も書けませんでしたが、続きは他の先輩会員が数年後に伝えてくれることを期待して……

いつべん、長崎ばさるいてみんねー（散策してみてね）



学術部 Information



- 2013年10月17日(木)青梅市立総合病院にて西多摩医師会学術講演会がありました。『CKDガイド・ガイドラインからみた血圧を中心とした包括的管理』というテーマで、横浜市立大学大学院医学研究科 病態制御内科学准教授 田村功一先生にご講演いただきました。
- 2013年10月23日(水)羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」にて西多摩医師会学術講演会がありました。『不眠症の診断・治療ストラテジー』というテーマで、医療法人絹和会 睡眠総合ケアクリニック代々木 精神・神経科学振興財団 睡眠健康推進機構 大川匡子先生にご講演いただきました。
- 2013年11月20日(水)青梅市立総合病院にて西多摩医師会学術講演会がありました。『鋭敏なリスクマーカーとして small dense LDL コレステロール』というテーマで、昭和大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門教授 平野勉先生にご講演いただきました。
- 2013年12月3日(火)公立福生病院にて西多摩医師会学術講演会がありました。『子どもから高齢者まで すぐ役立つ経口補水療法・経口補水療法の ABCDEF バンドル (+ PO・ORT)』というテーマで、神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科教授 神奈川県立がんセンター麻酔科 非常勤医師 谷口英喜先生にご講演いただきました。
- 2013年11月29日(金)西多摩医師会学術講演会があり、『私の経験した症例あれこれ—ヘルペス関連疾患を中心に—』というテーマで、聖隸三方原病院副院長 皮膚科部長 白濱茂穂先生にご講演いただきました。

『CKD ガイド・ガイドラインからみた血圧を中心とした包括的管理』

横浜市立大学大学院医学研究科 病態制御内科学准教授 田村 功一

末期腎不全患者数は日本に限らず海外諸国においても増加傾向にあり、患者のQOLや医療経済の観点からも重要な課題である。また、慢性腎臓病(CKD)では心血管合併症(CVD)も高率に認められる。このためCKD進行制御、CVD発症予防のために、日本のみならず海外においてもCKDにおける血圧管理のガイドラインが策定されている。CKDに関するガイドラインを作成するための国際的な組織であるKidney Disease Improving Global Outcome(KDIGO)からは2012年12月に、最近のエビデンスを踏まえた上で、CKDにおける血圧管理に関するKDIGO-BPガイドライン『KDIGO Clinical Practice Guideline for the Management of Blood Pressure in Chronic Kidney Disease』が発表された。また、現在米国では高血圧ガイドライン(JNC8)が改訂作業の最終段階に入っているが、欧州からは一足早く2013年6月にESH/ESC 2013 Guidelines for the Management of Arterial Hypertensionが発表され、CKD合併高血圧における降圧療法についても記載されている。一方、日本では日本腎臓学会から2012年6月に一般医向けのCKD診療ガイド2012が刊行され、その後腎臓専門医向けのCKD診療ガイドライン2013年が刊行された。さらに日本高血圧学会からは2014年4月頃に高血圧治療ガイドラインJSH2014が発表される予定である。

これらのガイドラインの作成・改訂のために参照されたエビデンスは降圧目標や降圧薬選択に関するものでは若干の違いもあり、ステートメントの内容に関して、特に海外と日本のガイド

ラインでは、若干の相違もみられる。例えば、日本腎臓学会により昨年改訂された一般医向けの CKD 診療ガイド 2012 における血圧管理においては、KDIGO-BP ガイドラインの内容を尊重しつつも、日本の保険診療やエビデンスを鑑みた独自の内容を記載した部分も多くなっている。CKD における血圧管理において現在議論があるのは、主に降圧目標と降圧薬選択に関してであり、今回改訂された専門医向けの CKD 診療ガイドライン 2013 における推奨内容を中心に解説する。

『不眠症の診断・治療ストラテジー』

医療法人社団絹和会 睡眠総合ケアクリニック代々木
精神・神経科学振興財団 睡眠健康推進機構 大川 匠子

最近、日本人の生活スタイルが夜型化して、睡眠時間は年々減少していることが明らかにされている。夜更かしの習慣は、大人だけでなく子どもにも蔓延し、睡眠不足を訴える小中学生は増加の一途である。

また、稼働率を上げるために連続操業をする会社の増加により、交代勤務や時差勤務を余儀なくされ、夜に活動して昼間に眠るなど自然の昼と夜の環境とは異なった明暗サイクルで生活する機会も増えてきた。このような生活環境が体内リズムを狂わせ、正常な睡眠がとれない人々の増加を生み出し、不眠症は5人に1人、睡眠薬使用は20人に1人といわれるまでになっている。

不眠を引き起こす原因として大きく身体的原因、生理学的原因、心理学的原因、精神医学的原因、薬理学的原因の5つがあげられるが、それぞれの原因を取り除くことで不眠は解消される。不眠症の慢性化を防ぐためには適切なストレスマネージメントを行い、日中の運動や規則正しく3度の食事を取るなどの生活習慣を心がけるよう睡眠衛生の指導が第一である。

睡眠衛生で効果がみられない場合は睡眠薬による治療が主体になるが、現在ではベンゾジアゼピン系が広く使われている。不眠症のタイプにより、超短時間作用型、短時間作用型、中間時間作用型、長時間作用型を使い分けるとよい。また、高齢者などでは筋弛緩作用の少ない睡眠薬を選ぶことも重要である。薬物療法以外にも光療法、時間療法、行動制限療法、メラトニン投与などの治療法があるので、症例に合わせてこれらをうまく組み合わせて治療していくことが大切である。

『鋭敏なリスクマーカーとしての Small dense LDL コレステロール』

昭和大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 平野 勉

LDLコレステロール(c)が動脈硬化、とりわけ冠状動脈疾患(CHD)の最も重要な危険マーカーであることは異論なき事実であり、大規模な疫学調査や薬剤の介入試験によって明らかとなっている。しかしながら LDL-C 値が正常であっても CHD を発症する場合がまれならず存在することもまた事実である。そこで注目されているのが LDL の質的異常であり、その代表格と目されているのが粒子サイズが小さく、比重の重い LDL (small dense LDL) (s d LDL) である。LDLコレステロールには「悪玉コレステロール」というニックネームが定着している。私は s d LDL の動脈硬化惹起性が一般的の LDL より強いことから、これに「超悪玉コレステロール」とのニックネームをつけた。s d LDL は血中滞在時間が長く、酸化を防止する脂溶性ビタミンの含有量が少ないため容易に酸化 LDL となる。したがって s d LDL は酸化 LDL の前駆体と考えられる。LDL サイズの変化はトリグリセリド (TG) 代謝やインスリン作用と密接に関連しメ

タボリックシンドロームや 2 型糖尿病で増加する。

粒子サイズと直結した構造上の変化は LDL 中のコレステロール含有量の減少であり、LDL の主要構造タンパクで 1 粒子に 1 分子あるアポ B に対し脂質成分のコレステロールが減少しているのが s d LDL の特徴である。このため s d LDL が増加しても LDL-C の増加はそれほど顕著ではない。LDL サイズを規定する最も強力な因子はトリグリセリド (TG) 濃度であり、LDL 小型化の約 50% が説明できる。インスリン抵抗性は TG 代謝を介して間接的に LDL サイズに影響を及ぼす。高 TG 血症ではインスリン抵抗性を伴っている場合が多く、食事、運動療法により体重、内臓脂肪量を減少させる努力で s d LDL は減少する。ライフスタイルの改善でも十分な効果が得られない場合は薬物治療を併用する。TG 低下作用を有するフィブロートは代表的な TG 低下薬であり、その TG 低下度に応じて LDL サイズが大型化する。sdLDL の濃度も著明に低下する。一般的にスタチンは LDL サイズを変化させないが、LDL コレステロールの低下と同程度に s d LDL-C 濃度を低下させる。コレステロール吸収阻害薬であるエゼチミブには中等度の LDL-C の低下と軽度の TG の低下作用があるが、高 TG 血症の対象では LDL-C 以上に s d LDL-C の低下作用が強い。標準的な LDL サイズ測定は電気泳動法であるが煩雑で長時間の泳動条件と、染色、脱色時間を必要とする。超遠心法、NMR、HPLC などもあるが、特殊な設備が必要であり一般に普及するにはまだ時間がかかる。我々はオートアライザーコンピューター対応の small dense (s d) LDL のホモジニアス測定法を開発した。s d LDL-EX として研究用試薬として市販されている。本法の測定時間は 10 分以内で、結果はわかりやすいコレステロール濃度で示される。

『子どもから高齢者まで すぐに役立つ経口補水療法・経口補水療法の ABCDEF バンドル (+ PO・ORT)』

神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 栄養学科 教授
神奈川県立がんセンター麻酔科 非常勤医師 谷口 英喜

経口補水療法 (ORT : oral rehydration therapy) とは、脱水症に対しての輸液療法と同等の水分電解質補給効果が期待できる経口的な補水療法である。ORT には、その組成が米国小児科学会 (APP)、欧洲小児栄養消化器肝臓学会 (ESPGHAN) などにより定められた経口補水液 (ORS : oral rehydration solution) が用いられる。ORS の組成は、小腸における “Na⁺・消化産物（ブドウ糖・多糖類・アミノ酸など）共輸送機構” が最も効率的に機能する組み合わせ（ブドウ糖と Na⁺ のモル濃度比率が 2 ~ 1.1 を超えない）である。ORT は Lancet (1978 年) の中では、「ORT は 20 世紀最大の医学上の進歩」と述べられ、開発途上国を中心に多くの命を救った実績がある。2003 年に CDC から公表された下痢および脱水症を呈した小児に対する適切な治療の 7 原則の中で改めて ORS の使用が推奨されている。

本研修では、ORT の理論と実践的活用方法について概説した。ORT の適応は軽度から中等度の脱水症で、子供から高齢者まで広く活用できる。ORT の長所は、①生理的な方法で水、電解質の補給ができる、②特別な器具を必要としない。③入院せずに外来での治療（服用は家庭で）が可能などの利点がある。一方、活用法を十分に理解せずに用いると効果が得られない場合がある。特に、適応を見極め、迅速に ORT を開始して、改善傾向が認められたら速やかに通常食に移行し、改善しない場合には輸液療法の併用または移行を判断することが大切である。これを医療従事者（医師、看護師、薬剤師、管理栄養士）が正しく指導することで、脱水症による病態の悪化を防ぐことが可能である。本研修では、ORT のバンドルとして、A : All age is

applies (全ての年齢に適応できる)、B : Best practice for dehydration (脱水治療に有効な治療手段)、C : Choice of only oral rehydration solution (定義に準じた経口補水液を選択する)、D : Dehydration is improved (脱水が改善される)、E : Early start is effective (迅速に開始することが効果的)、F : First choice for patient if dehydration (脱水症例に対する治療のファーストチョイス) を提案した。

また、演者の専門領域として周術期における ORT の活用方法も情報提供した。演者は、日本麻酔科学会術前絶飲食ガイドライン（2012 年 7 月公表）作成を担当した。ガイドラインのエビデンスとして術前経口補水療法 (PO-ORT : Preoperative Oral Rehydration Therapy) に関する臨床試験の結果が引用されている。PO-ORT は、本邦の周術期管理の質の向上に大きく貢献しており、さらに全国的に普及されるものと考えられる。

以上のように ORT は医療全般に活用され、治療手段の選択肢の一つとして全ての医療従事者が有しているスキルである。ORT の詳細に関しては、演者の著書「すぐに役立つ経口補水療法ハンドブック、日本医療企画」をご購読、また株式会社大塚製薬工場の HP <http://www.os-1.jp/> をご参照いただくことを勧めたい。

『私の経験した症例あれこれ—ヘルペス関連疾患を中心に—』

聖隸三方原病院副院長 皮膚科部長 白濱 茂穂

人間に感染しているヘルペスウイルスは現在 8 種類が証明されている。日常診療で遭遇する機会の多いものは帯状疱疹である。皮疹は片側性に限局していることが多い。抗ウイルス剤はなるべく早期に十分な量を投与する必要がある。しかし、すべての抗ウイルス剤は腎排泄のため、腎機能が低下している高齢者では、その投与量を考慮する必要がある。抗ウイルス剤は糸球体からの濾過および尿細管からの分泌によって尿中に排泄される。腎臓の尿濃縮機構により投与された抗ウイルス剤の腎臓内濃度は血清濃度に比べて 10 倍高い。さらに、抗ウイルス剤は、尿での溶解率が低いため、過剰投与すると、尿細管での結晶化が起こり閉塞性腎障害をきたす可能性がある。高齢者の場合、食も細くなり水分補給も十分でないこともある。そのため、抗ウイルス剤投与中はこの結晶を洗い流すという意味でも十分な水分補給は必要である。腎機能を正しく評価するためには、血清のクレアチニンを測定する必要がある。しかし、しばしば採血する機会がなかったり、すぐに結果が得られない場合がある。一つの目安として腎機能が半分に低下するのが平均的に 70 歳男性である。この年齢から抗ウイルス剤の投与量の減量を考慮する必要があると思われる。

帯状疱疹は通常痛みを伴いコントロールが難しいこともしばしばである。よく使用される薬剤に NSAIDs であるロキソプロフェンナトリウム（ロキソニン）がある。これらの薬剤はアラキドン酸代謝経路でプロスタグランジン (PG) の産生を抑制する。腎血管系に対しては、腎血管収縮系が優位になって結果的に腎血流量が減少する。適切な量の抗ウイルス剤を投与していくと NSAIDs の併用によって、腎障害をきたす可能性がある。高齢者の場合、鎮痛薬の中では安全性の高い薬剤であるアセトアミノフェン（カロナール）が推奨される。本剤は消化器症状、腎臓障害、血液凝固阻害作用などがない。現在、症候性神経痛という病名で成人にはアセトアミノフェンとして 1 回 300 ~ 1000mg を一日総量として 4000mg を投与することが可能となった。実際の現場では演者は 1800mg ~ 2400mg を投与して経過をみている。

帯状疱疹後神経痛に使用されるプレガバリン（リリカ）はカルシウムプロッカーである。本剤も腎排泄であるため、腎機能を考慮しないとより強く効果や副作用が出る可能性がある。副作用としては、めまいや傾眠がある。本剤内服中の交通事故が多発しているので注意が必要である。

今後、高齢者の帯状疱疹に遭遇する機会が多いため、抗ウイルス剤の適切な投与量、より副作用のない鎮痛剤の投与、十分な水分補給などが重要かと思われた。

また、口唇ヘルペスなどの単純性疱疹の治療においては、症状が軽微であっても抗ウイルスの外用剤だけでは不十分である。初発・再発および重症度を問わず、抗ヘルペスウイルス薬の全身投与が推奨される。



第27回 西多摩心臓病研究会報告

第27回西多摩心臓病研究会が10月16日に青梅市立総合病院講堂で行われました。当番世話人として福生団地クリニック、小久保義和先生とともに筆者が担当し、最近話題の高齢者の大動脈弁狭窄に対する治療について取り上げました。

第1部の特別公演は、榎原記念病院内科系集中治療部門・部門長の桃原哲也先生が『大動脈弁狭窄症に対する診断、治療』－ 最近の経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）の話題も含めて－という演題でお話しされた。桃原先生は榎原記念病院循環器内科の実働部隊のチーフで、当直、緊急冠動脈形成術もこなしながら、話題のTAVIの治験のメインオペレーターを務めました。講演の要旨は以下の通りです。

第2部では一般演題、症例検討として、筆者が81歳の感染を繰り返す、肝硬変を合併する重症大動脈弁狭窄患者について桃原先生の意見を頂き、TAVIより、今まで通りの大動脈弁バルーン拡張術（BAV）をとのことでした。

本来は5月15日予定で、多数の出席を頂きましたが、桃原先生、筆者の冠動脈形成術、術後の対応で急遽キャンセルになったこと、お詫び致します。

(青梅市立総合病院循環器内科 清水茂雄)

『大動脈弁狭窄症に対する診断、治療』

－ 最近の経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）の話題も含めて－

公益財団法人 日本心臓血管研究振興会 附属 榎原記念病院 循環器内科 桃原 哲也

高齢化社会を迎え、動脈硬化をベースとした石灰化病変を伴う大動脈弁狭窄症の患者さんが増加しています。標準治療は、開心術による大動脈弁置換術です。しかし、開心術のリスクの高い方、特に高齢者に対しては、ヨーロッパで2002年に初めて行われた経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI）が、すでに9万件を超えて行われています。本邦でも治験が終了し、今年の10月より保険償還され、行うことが可能になりました。

そこで、今回は大動脈弁狭窄症に対する診断と治療、とりわけ当院のTAVIの経験とその成績をお話しします。

エドワーズライフサイエンス社製のサピエンXTを使用しました。23mmと26mmを用いて、15例を経大腿動脈アプローチ、12例を経心尖部アプローチ、合計27例に対してTAVIを行いました。平均年齢が85.4歳、女性16例でした。1年後の生存率は、92.4%でした。2004年から2008年に当院で行われた80歳以上のAVRの1年生存率が93%ですので、遜色のない成績と考えています。

このようにAVRのリスクの高い高齢者にTAVIを行うことで、症状と予後の改善が見込める時代になりました。しかし、一方で医療経済的側面からどうか、など課題も多く残されています。全例登録が義務づけられ、今後データーを解析しながら、よりよい治療になるようにしていきたいと考えています。

西多摩医師会主催学術講演会について

H 25 年 10 月 12 日（土）西多摩医師会主催の市民健康講座を青梅市立総合病院南棟講堂にて開催いたしました。タイトルは「認知症」というテーマで 3 部構成で行ないました。青梅市立総合病院神経内科部長 高橋真冬先生に「認知症に早く気がつくために」、秋川病院院長植田宏樹先生に「認知症の方との上手な接し方」、青梅認知症家族の会青梅ネット代表長谷川正先生に「認知症家族の会の現状（7 年目の風景）」のご講演をして頂きました。

当日は来場予想人数を大きく上回る 124 人の参加者が来場されました。（羽村市 16 人、青梅市 71 人、あきる野市 12 人、福生市 6 人、瑞穂町 6 人、奥多摩町 1 人、無記名 12 人）

市民の皆様の関心の高さが伺える講座となりました

詳細につきましては土田学術委員より報告いたします。 （学術部担当 小林 康弘）

西多摩医師会市民健康講座

学術部



10 月 12 日土曜日に青梅市立総合病院で市民健康講座が開催されました。今回は「認知症」をテーマに 3 人の先生方に講演をして頂きましたが、配布資料が足りなくなるほどの大勢の一般参加があり、認知症というのがごく身近な問題なのであることを改めて感じました。横田会長の挨拶のあと、「認知症に早く気がつくために」の項目で青梅市立総合病院神経内科の高橋真冬先生に、「認知症の方との上手な接し方」の項目で秋川病院院長の植田宏樹先生に、「認知症家族の会の現状」について青梅認知症家族の会の代表、長谷川正先生に講演をして頂きました。

高橋先生からは、老化や認知症の一般的な話から、うつ病など認知症との鑑別の必要な疾患について、早期発見により改善できる認知症であること、認知症患者に対する家族の対応の仕方などについて話を聞いて頂きました。認知症で困っているのは患者さん本人であり、家族はご本人を中心に対応することが大事であるとも話されました。

植田先生からは、認知症患者さんに対する家族の接し方について更に具体的に話を聞いて頂きました。患者さんの自尊心を傷つけないようにすることが大切であり、認知症の方に対しては記憶を引き出すような質問でなく感情についての質問をしたり（「ごはんを食べた？」→「おなかがすいた？」）、言い逃れや取り繕った答えを認めてあげることも必要とのことでした。また、記憶が障害されても決まった日課を繰り返すことやそれを認識することは可能であること、判断力が障害されているので説明を長引かせないことなどが大事であるとも話されました。豊富な経験から具体的な説明をして頂き、医療従事者にとっても為になる講演でした。

最後に長谷川先生からは認知症家族の会の現状として具体的な活動内容を報告され、認知症患者さんの家族が「みんなで」話し合うことの大切さを教えて頂きました。一方でそうした家族の会を冷ややかに見る目も残念ながら存在することも話されました。

講演後に行われた質問コーナーでは、認知症患者さんへの対応として甘いものをほしがる方や幻聴が聞こえたりする方に家族がどうするべきかなどの質問がありました。また家族の会に携わりたいというボランティア希望者の手あげもありました。

冒頭に述べましたように、今回多くの参加者が来られたことからも認知症という疾患が決して他人事ではなくになっているということを認識すると同時に、認知症だけではなくどんな障害者もそれぞれ自尊心がありそれを尊重することの大切さを教わりました。ただそれは身近な人間であっても気づきにくいことであり、ましてや直接関係しない他人が理解するのは更に難しいのかもしれません。そういうところに昨今問題となっているいじめや虐待の一因があるのかもしれません。

れません。今回の会の終わりに家族の会に対してボランティアとして力になりたいとおっしゃられた方が数名おられたのには心が救われた気が致します。

文責：土田大介



平成 25 年度 多摩地区医師会懇話会



平成 25 年 11 月 16 日(土)パレスホテル立川にて、平成 25 年度多摩地区医師会懇話会が開催されました。

当日は、約 260 名の出席者があり、盛会となりました。西多摩医師会からは、横田会長をはじめ 14 名が出席しました。

会は、香取公明立川市医師会副会長の開会の辞で始まり、当番医師会会长阿川忠郎立川市医師会会长の挨拶、つづいて来賓祝辞、その後、真鍋勉東京都医師会代議員会議長の乾杯で会食となりました。アトラクションは、山下洋輔ニューヨーク・トリオの素晴らしいジャズの生演奏がありました。

会は終盤になり、次期当番医師会として横田卓史西多摩医師会会长が挨拶され、最後に、黒田亮平立川市医師会副会長が挨拶され、閉会となりました。

平成 26 年多摩地区医師会懇話会は、西多摩医師会の当番で開催される予定です。

文責 奥村 充

【次第】

		【ご来賓名簿】		(敬称略)
司 会		桜庭ひろみ	日本医師会 副会長	今村 聰
開会の辞	立川市医師会副会長	香取 公明	東京都福祉保健局 技監	前田 秀雄
当番医師会会长挨拶	立川市医師会会长	阿川 忠郎	衆議院議員	武見 敬三
来賓祝辞	日本医師会副会長	今村 聰 様	衆議院議員	小田原 潔
	東京都医師会副会長	尾崎 治夫 様	立川市長	清水 庄平
	東京都福祉保健局技監	前田 秀雄 様	東京都医師会 副会長	尾崎 治夫
	衆議院議員	武見 敬三 様	東京都医師会 副会長	猪口 正孝
	衆議院議員	小田原 潔 様	東京都医師会 理事	近藤 太郎
来賓紹介	立川市長	清水 庄平 様	東京都医師会 理事	野津原 崇
乾 杯	東京都医師会代議員会議長	真鍋 勉 様	東京都医師会 理事	角田 徹
アトラクション	山下洋輔ニューヨーク・トリオ		東京都医師会 理事	山口いづみ
次期当番医師会会长挨拶	西多摩医師会	横田 卓史 様	東京都医師会 理事	渡辺 象
閉会の辞	立川市医師会副会長	黒田 亮平	東京都医師会 理事	平川 博之
			東京都医師会 理事	橋本 雄幸
			東京都医師会 理事	小林 弘幸
			東京都医師会 理事	蓮沼 剛
			東京都医師会 理事	正木 忠明
			東京都医師会 理事	日々澤 肇
			東京都医師会 理事	森久保雅道
			東京都医師会 理事	伊藤 雅史
			東京都医師会 理事	佐々木伸彦
			東京都医師会 監事	内藤 誠二
			東京都医師会 代議員会議長	赤上 晃
			東京都医師会 代議員会副議長	真鍋 勉
			東京都医師会 広報委員会委員	白岩 照男
			東京都医師会 事務局長	坪田 淳
			東京都医師会 事務局長	新井 祐司



在宅医療委員会

大久野病院 進藤 晃

在宅医療委員会の運営を拝命しております大久野病院 進藤晃です。委員会の活動についてご報告申し上げます。2025年に団塊の世代が後期高齢者となり本格的な少子高齢化社会を迎える。今まで都心の病院へ通院されていた方が通えなくなる、高齢者の激増により都心では受診できなくなる事も予想される。西多摩において急性期病院は手一杯となり在宅での診療を否応なく行わざる得ない時代が来るであろう。高齢者の激増はイコール多死社会となる。死亡者は年間100万人から150万人へ激増するが、病院での年間死者数は一定数であり現状以上に増えても微増で大幅に増える予想はできない、特養などの施設設置も大幅には増えない事から、全国で40万人の人が亡くなる場所が決まっていない。西多摩で年間2000人、日に5人から6人増加する計算になる。この増加に誰が対応するのであろうか？我々西多摩医師会会員全員で在宅医療に取り組んで対応しなければとても難しいと思う。

その在宅医療を行うに当たり、どの様に行うのが最もスムーズであるか在宅医療委員会で検討し在宅医療連絡会で皆さんにお伝えしてきた。在宅医療委員会の今後の運営は、先生方をはじめ在宅に関連する訪問看護師・訪問リハビリ・ケアマネ・薬剤部・歯科医師を対象に在宅医療講座を隔月で年6回開催していく予定である。何故在宅医療が必要なのか、かかりつけ医に求められる在宅医療、訪問看護をはじめ在宅医療のコメディカルとの連携、在宅医療で必要となる医療機器の取り扱い方法、在宅医療における栄養と口腔ケア、法律知識などを予定している。詳細は3ヶ月頃ご案内予定。

その他、在宅医療を行うに当たり多職種との情報共有が必要となる。その為タブレット端末とパソコンを利用した情報共有用サーバーを医師会に用意した。患者登録と情報の整理はパソコンで行い、情報の入力と参照はタブレット端末を用いて写真で入力し、写真を参照する方法で行う事ができる。ご利用される方は進藤までお問い合わせください。

以上簡単ですが、在宅医療委員会の活動報告です。

専門医に学ぶ 第104回



公立阿伎留医療センター

眼科 濱 祐一郎

症例：37歳 女性**主訴：**眼痛、複視、眼球突出、両眼充血**現病歴：**平成25年3月初旬から左眼痛（深部痛）、ピントが合いづらい、両眼充血を自覚した。前医眼科で花粉症の診断で点眼を処方された。

4月中旬頃から両眼瞼腫脹、眼球突出を他人に指摘され、近医内科を受診し甲状腺機能を精査するも異常はみられなかった。

5月1日より複視、右眼羞明、眼球運動痛が出現し増悪するため、精査加療目的で5月13日当科を紹介受診した。

初診時眼科所見：視力は右眼0.04(1.0)、左眼0.06(1.0)、眼圧は右眼14mmHg、左眼16mmHgであった。眼位は30プリズム外斜視、6プリズム右上斜視で、眼球突出度はHertel眼球突出計で右22mm、左21mmであった。瞳孔は正円同大であり、対光反応は直接、間接とともに迅速であり、相対的求心性瞳孔障害(relative afferent pupillary defect: RAPD)は認められなかった。正面視で瞼裂幅は右12mm、左13mmで、両眼共に全方向眼球運動制限と左眼上眼瞼後退がみられた（図1）。細隙灯顕微鏡検査では、結膜充血、結膜浮腫と両眼の角膜下方に点状表層角膜炎を認めた。**臨床検査所見：**血液生化学検査では、白血球数8,300/ μ L、CRP 0.77mg/dlと軽度の炎症所見を認めた。その他の一般生化学検査に異常所見は認めなかった。甲状腺機能検査では、TSH 2.83 μ U/ml（基準値：0.34-3.8）、Free T3 2.78ng/dl(2.0-3.8)、Free T4 2.19ng/dl(0.8-1.5)であった。また、甲状腺関連自己抗体TSHレセプター抗体(TRAb, TbII) 0.3以下IU/mL（基準：2.0以下）、TSH刺激性レセプター抗体(TSAb) 99%（180以下）、抗サイログロブリン抗体(TgAb) 10以下IU/mL(28未満)、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(TPOAb) 10IU/mL(16未満)といずれも正常範囲内であった。**画像所見：**眼窩のCTならびにMRI検査では両眼の全外眼筋の肥厚を認めた（図2）。**診断：甲状腺眼症****鑑別診断：**特発性外眼筋炎、特発性眼窩炎症、腫瘍性眼筋腫脹、内頸動脈海綿静脈洞瘻など。**解説：**甲状腺眼症は、自己免疫性甲状腺疾患に伴って発症し、眼球突出や眼瞼後退などの特徴的な肉眼的所見だけでなく眼瞼浮腫、結膜充血、結膜浮腫など多彩な臨床症状を呈する。甲状腺眼症は片眼性のものが多く、両眼性は比較的まれとされる。甲状腺眼症の診断には、臨床症状、甲状腺機能検査、画像診断により統合的に判断する必要があるが、甲状腺機能異常がない場合でも甲状腺眼症は否定できない。一方、抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体や抗サイログロブリン抗体などの抗甲状腺自己抗体の存在が重要とされるが、これら自己抗体の陽性率はいずれも40～60%

前後であり、最終的には甲状腺眼症はあくまで眼症状から診断する必要がある。

本症例は、37歳女性に発症した甲状腺眼症の急性増悪例である。臨床症状が両側性であり、血液生化学検査、甲状腺機能検査で明らかな異常を認めないことから、特発性外眼筋炎との鑑別が困難であった。甲状腺眼症の初期症状として、有痛性眼球突出や眼球運動障害、視力低下、両側性症状は非典型例とされる。しかし、初診時からみられた特徴的な眼瞼後退と、眼窩の CT ならびに MRI 検査において全外眼筋筋腹の紡錘状肥厚を認めたことから甲状腺眼症の急性増悪の診断に至った。眼瞼腫脹や結膜充血などの前眼部炎症所見は、甲状腺眼症の急性期炎症所見としてみられる所見である。また、特発性外眼筋炎などの他の眼窓炎症性疾患においてもみられる臨床所見であり、いずれもステロイド全身投与の有効性が期待される。本症例も入院管理下でステロイドパルス療法を行った。治療後に眼球運動は改善し、画像検査上も外眼筋の腫大は軽快した。甲状腺機能正常例においても眼症状の急性増悪をきたす場合にはステロイド治療が有効であると考えられた。

甲状腺眼症の急性増悪の非典型例を示した。診療の一助となれば幸いである。

図の説明

図1：両眼共に全方向眼球運動制限がみられる。左眼上眼瞼後退（Dalrymple 徴候、白矢印）がみられる。

図2：眼窓の CT ならびに MRI (T2 強調像：脂肪抑制) で全外眼筋筋腹の肥厚が認められる。



図1 初診時の9方向眼位

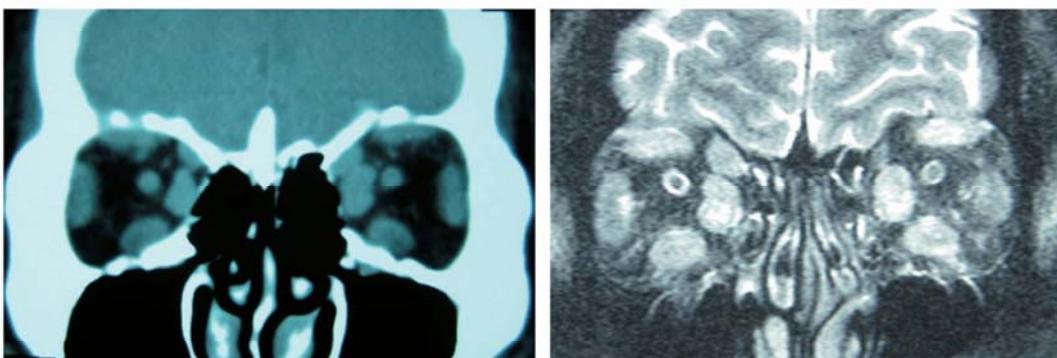


図2 眼窓の CT ならびに MRI 検査

広報だより



小旅行

羽村市 双葉クリニック 松崎 潤

患者さんと紅葉や味覚の秋の話で盛り上がっていたと思ったら、あつという間に一年が過ぎていきました（今、この広報だよりを書いているのは12月ですが……）。今年も国内外で異常災害が多発しました。災害に遭われた地域の皆様の早い復興を心より願います。

平成25年は関西方面への小旅行が多かった年でした。6月に姪の結婚式が名古屋であり、話の種に新宿から夜行バスで名古屋へ向かう事にしました。しかし、50過ぎのおっさんにはちと過酷な体験で、現地のホテルで弟に会ったら私を見て、「縮んじやって、さらにちっちゃいおっちゃんになっちゃったんじゃない」、一言……。自分でも一気に老け込んだような気がしました。そのせいか、ホテルからは一歩も出ず、名古屋名物のきしめんや味噌カツも食べず、ホテル内でひつまぶしと手羽先を食べただけでした。帰りは新幹線で、なんと快適な事か。たぶん夜行バスに乗車することは二度とないでしょう（夜行バスの難点→座席が狭い、自分に合った空調ではないなど。やはり、若い方の乗車が多いです）。

11月には神戸で学会がありました（もちろん行き帰り共に新幹線でした）。学会場へは1981年開通当時、世界初の無人運転システムのモノレール「ポートライナー」で向かいました。神戸港を見下ろしながら乗車していると港町の風情が感じられ、なかなか快適がありました。その後、学会は早々に切り上げて、初めての有馬温泉へ向かいました。六甲山を望みながらの高速バスでの移動も快適でした。有馬温泉は、温泉地の老舗ということにぎやかな温泉街を予想していましたが、まわりが山に囲まれているためか、全体にこぢんまりとした印象でした。泉質はさらりとして気持ちのいいお湯でした。

どちらも一泊二日のプチ旅行でしたがちょっとした旅情を味わう体験は気分的にリフレッシュされるようで、その後の仕事にも張りが出るような気がします。今年は、学会が福岡なので、ほかに東北方面への旅ができればと考えています。

連載企画



今年の漢字

青梅市 ゆだクリニック 湯田 淳

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、何を書こうかと悩んでいたところ、昨年12月上旬に聴いていたラジオ番組の中で、「今年の漢字」の予想をする企画がありました。調べてみると「今年の漢字」とは漢字の持つ奥深い意義を再認識する目的で日本漢字能力検定協会が1995年から毎年実施している行事

です。全国からその年の世相を表す漢字一字を募集し、最も応募数の多かった漢字を12月中旬に京都 清水寺貫主が縦150cm 横130cmの越前和紙に揮毫（きごう・・一般に著名人や書家が依頼に応じて毛筆で文字を書く事）し、奉納します。

毎年、テレビニュースで報じられるので御覧になった方も多いはずです。昨年の漢字は「輪」でした。応募総数170290票中9518票を集め、1位に輝いたようです。応募理由としては①日本全体のチームワーク＝「輪」で2020年のオリンピック・パラリンピック東京開催を勝ち取った。②台風、竜巻、集中豪雨による洪水など自然災害に際し、多くの支援の「輪」が広がった。などがあつたようです。

ちなみに選ばれた過去の漢字を挙げてみると、2012年＝「金」、2011年＝「絆」、2010年＝「暑」、2009年＝「新」、2008年＝「変」、2007年＝「偽」、2006年＝「命」、2005年＝「愛」、2004年＝「災」でした。これらの一字をみるだけでその年に起つた出来事をどれくらい思い出せるでしょうか？これらの漢字には多くの人たちの様々な思いが込められています。例えば2009年は「新」という字が選ばれていますが、この年はイチロー選手が9年連続200本安打で大リーグ新記録を達成。また、新型インフルエンザの恐怖に誰もがおびえた年でもありました。2010年は「暑」が選ばれていますがこの年の夏は記録的な猛暑日の連続により、熱中症にかかる人が続出、多くの人が地球温暖化の警鐘を実感した年でもありました。また、違った観点から小惑星探査機「はやぶさ」が地球への突入速度10000度に達する暑さに耐え、世界で初めて小惑星の微粒子を持ち帰ってきた快挙も応募理由に挙げているのには驚きました。

今回、「今年の漢字」を調べていくうちに世相の大きな変化、時流の速さ、そして、漢字一字に込める日本人の感性の豊かさをひしと感じました。今年、一年が西多摩医師会にとって素晴らしい年になりますように、そして、今年の年末には楽しく、わくわくするような「今年の漢字」が選ばれますよう心から願いたいものです。

秋川救急隊の活躍!!

日頃小児救急診療にご協力いただき誠にありがとうございます。いち早く救急処置を行うには、患者様を搬送する救急隊の活動が不可欠です。

一件すばらしい出来事がありました。3歳男児が自宅で大きなあめ玉をのどに詰まらせ窒息して救急要請、現着時患児は心肺停止の状態でしたが、救急隊の機転で現場にて即座に咽頭展開し異物を取り出し蘇生したそうです。病院到着時には患児元気に泣いており、念のため数日入院して経過をみました後遺症なく退院していました。平成24年4月13日15時41分覚知、患児はあきる野市草花在住、秋川救急の女性隊長でした。あいにくお名前は記録に残しておりません。

救急診療では、現場での初期対応とゴールデンタイム内の処置が重要です。今後もみんな一緒にがんばりましょう。

青梅市立総合病院小児科部長 横山美貴

西多摩地域糖尿病医療連携検討会からのメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会 野本 正嗣



今月は以下の3点について情報提供いたします。

- (1) 東京都の「糖尿病地域連携の登録医療機関制度」について
- (2) 糖尿病診療ポイント集『2014 西多摩版』について
- (3) 「糖尿病セミナー」について

(1) 東京都は、今年度より、新たに「糖尿病地域連携の登録医療機関制度」を開始する事を決定いたしました。その中身は、一定の要件を満たした医療機関を「糖尿病地域連携の登録医療機関」として東京都福祉保健局のホームページ等で公表し、地域での糖尿病医療連携を推進すると共に、都民が身近な地域で、適切な糖尿病治療が受けられる事を目指した制度です。既に西多摩地域では「糖尿病医療連携リスト」を本年4月に作成・配布させて頂きましたが、このリストへの登録とは別の「東京都が実施する」登録医療機関制度です。具体的な内容、登録の詳細等につきましては、平成26年2月頃に医師会より資料を送付させて頂く予定です。資料の内容をご覧頂き、できるだけ多くの医療機関に登録をして頂きますようお願い申し上げます。

(2) 当検討会では、現在、糖尿病診療の基本的事項をコンパクトにまとめたポイント集『西多摩版』を作成中です。教科書とは少し違った、日頃の糖尿病診療に即、役立つような内容を盛り込んだ小冊子です。平成26年3月には会員にお渡しできると思いますので、是非机上に置いてご活用下さい。

(3) 当検討会が毎年実施している「糖尿病セミナー」を、平成26年3月2日(日)午前10時～午後3時、西多摩医師会館において開催いたします。今回は「変わりゆく糖尿病診療に対応するために」をテーマに、最新の情報・治療法を含めた実践的セミナーを企画いたしました。(詳細は別紙プログラムをご覧下さい) (2)に記載した、できあがったばかりの「糖尿病診療ポイント集」を使用しての講義・症例検討も予定しております。医師のみでなく、糖尿病診療に携わるコメディカルスタッフの皆様の参加も可能です。(インスリン注射指導、SMBGの指導についての実技もあります) セミナーについてのご案内は平成26年1月上旬を予定しております。日曜日の5時間という長丁場でありますが、多くの先生方、コメディカルの方々のご参加をお願い申し上げます。

(文責 野本正嗣)

平成 25 年度 西多摩地域糖尿病セミナー

日 時：平成 26 年 3 月 2 日（日）10:00 ~ 15:00

場 所：西多摩医師会館・2階会議室

青梅市東青梅 1-167-12 (JR 青梅線「東青梅」駅西口・徒歩 4 分)

変わりゆく糖尿病治療に対応するために

総合司会： 野本医院

野本 正嗣

10:00 開会の辞 西多摩医師会 会長

横田 卓史

第1部

10:05 (仮) 新しい血糖管理基準～熊本宣言 2013 を臨床に活かす～

演者： かたやま内科クリニック

片山 隆司

11:05 (仮) 第6の合併症「歯周病」と医科歯科連携

演者： ハマダデンタルクリニック

浜田 亮

ランチョンセミナー（糖尿病食の試食会）

12:05 (仮) 合点！注射薬治療（GLP-1 作動薬も含めて）と SMBG

演者： 高村内科クリニック

植木 彰夫

演者： 高村内科クリニック 看護師

名嘉真 香小里

第2部

13:05 (仮) 糖尿病診療ポイント集「2014 西多摩版」の活用

演者： 青梅市立総合病院

関口 芳弘

演者： 高村内科クリニック

高村 宏

演者： 柳田医院

柳田 和弘

第3部

14:05 症例検討会

座長： 野本医院

野本 正嗣

コメンテイター： 青梅市立総合病院

関口 芳弘

コメンテイター： 高村内科クリニック

高村 宏

コメンテイター： 柳田医院

柳田 和弘

14:55 閉会の辞 野本医院

野本 正嗣

<※出欠についてのご案内は、1月中にお送りする予定でおります>

会員各位

社団法人 西多摩医師会
学術部長 小林康弘

第12回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第12回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。つきましては、日常の診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：平成26年2月4日（火）午後7時30分から

開催場所：公立福生病院 多目的ホール

演題募集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。

演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発表者：西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただくことがあります。

発表内容：症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間：1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領：発表内容を400字程度にまとめてFAXして下さい。

発表者の抄録は、医師会会報に掲載します。

尚、スライド・パワーポイント等使用を明記して下さい。

募集期間：平成25年12月16日（月）～平成26年1月24日（金）

（西多摩医師会 FAX 0428-24-1615・0428-23-2160）

◇学術講演会予定

25.12.20

開催日	開始～終了時間 開催時間	会 場	単位数	カリキュラムコード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
1.27 (月)	19:30 ～ 20:30	公立阿伎留 医療センター	1	61, 62	学術講演会 関節リウマチの最近の話題（仮）	日本大学医学部内科学系 血液膠原病内科学分野 教授 武井 正美 先生
1.31 (金)	19:30 ～ 21:10	羽村市 生涯学習 センター ゆとろぎ レセプション ホール	1.5	1, 76, 82	学術講演会 【症例提示&ディスカッション】 未定 【特別講演】 GLP-1 や GIP の特徴を踏まえた 糖尿病治療	杏林大学 第三内科 助教 竹口病院 糖尿病内科 炭谷 由計 先生 関西電力病院 院長 清野 裕 先生

理事会報告**★ Information****10月定例理事会****平成25年10月22日(火)****西多摩医師会館**

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・宮城・近藤・小林・西成田・朱膳寺・奥村・大堀・中野]

【1】報告事項**(1) 都医地区医師会長連絡協議会****1. 都医からの伝達事項****1. 小児用肺炎球菌ワクチンの切り替えについて**

11月1日より、沈降7価肺炎球菌結合型ワクチンは、沈降13価肺炎球菌結合型ワクチンへ変更となる。沈降7価肺炎球菌結合型ワクチンは、11月1日より市場在庫引き上げ開始。

2. 平成25年度第1回/2回がん健診受託機関講習会

(地区医師会がん検診担当理事連絡会)の開催について

第1回 平成25年11月7日(木)午後2時～4時 東京都医師会

第2回 平成25年12月5日(木)午後2時～4時 東京都医師会

3. 23区との定期予防接種に関する準備会報告について**4. 平成25年度在宅難病患者訪問診療事業地区医師会別実施報告(第1四半期分)**

について

5. 休日・全夜間診療事業の見直しについて

高齢化の進展に伴い救急搬送需要は増加傾向にあるが、都の救急告示医療機関は減少傾向にある。現行の確保病床「2床確保又は3床確保」(2段階)を救急車の受け入れ実績に応じ、「1床確保から4床確保」の4段階とし、救急搬送受け入れ実績に対する評価を高め、積極的な救急搬送受け入れを促進する。確保病床を4段階へ移行し、加算項目を設定する。

6. 「東京都医師会院内調査委員会ワーキンググループ」委員名簿について**7. 東京都医師会館建設について**

現在地に建て替える予定

2. 地区医師会からの報告**1. 中央ブロック(当番：千代田区医師会)**

①第 16 回浅草医学会について

②第 17 回台東区の在宅医療を考える会について (浅草医師会)

2. 城東ブロック (当番: 墨田区医師会)

①第 7 回江東区医師会医学会について (江東区医師会)

②第 31 回江戸川区医学会 (11 月 16 日・17 日) について (江戸川区医師会)

3. 城西ブロック (当番: 世田谷区医師会)

4. 城南ブロック (当番: 品川区医師会)

5. 城北ブロック (当番: 北区医師会)

①「第 18 回板橋区医師会医学会 区民公開講座」について (板橋区医師会)

②「板橋区医師会インフルエンザ情報 web 運用開始」について (板橋区医師会)

6. 多摩ブロック (当番: 北多摩医師会)

7. 大学ブロック (当番: 昭和大学医師会)

3. 出席者による意見交換

4. その他

1. JT、財務省、たばこ利権について

2. 東京都医師会生涯教育委員会委員の推薦について

(2) 各部報告

学術部 10 月 12 日開催した市民公開講座 120 人参加

地域医療部 10 月 10 日開催した災害対策委員会について

(3) 地区会報告 (各地区理事)

青梅市 10 月 25 日懇親会予定

福生市

羽村市

あきる野市 10 月 21 日例会開催

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

退会者（準会員）1 名のみ

【3】協議事項

該当議題なし

【4】その他

- (1) 賀詞交歓会 26年1月25日(土)午後6時～スイートプラムで開催予定
西多摩医療懇話会 26年2月1日(土)フォレストイン昭和館車屋で開催予定

11月定例理事会

平成25年11月12日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・蓼沼・江本・近藤・小林・西成田・朱膳寺・安部・大堀・中野]

【1】報告事項

(1) 各部報告

- ・総務部 11月9日 開催された「市民公開講座（糖尿病）」の状況について
(糖尿病医療連携検討会)
11月11日 開催された「在宅医療連絡会」の内容について（在宅医療委員会）
- ・学術部 11月9日 開催された「多摩医学会」の状況について

(2) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 10月25日 懇親会開催

青梅市立総合病院で開催していた「内科カンファレンス」を26年3月7日(金)に医師会館で開催としたい。

福生市

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告

- ・東京都医師会第2回救急委員会

【議題】

1. 会長諮問事項について
2. 休日・全夜間診療事業実績報告（平成25年度第1四半期分）について
3. 平成25年度第2回休日・全夜間診療事業参画医療機関の選定結果について
4. 休日・全夜間診療事業の見直しについて
5. 医療機関における防火安全対策の徹底について
6. 市区町村における災害用の医療機器等の備蓄リスト（案）の送付について
7. 東京消防庁救急相談センターについて

8. 「東京マラソン 2014」開催に伴う医療スタッフの派遣について
9. 東京都医師会救急委員会災害医療研修部会の設置について

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

報告該当事項なし

【3】協議事項

協議事項なし

【4】その他

- (1) 互助会役員より「クリスマス会」会費について各理事の意見が求められた。
各理事の意見を集約し、正会員 5000 円 準会員 2000 円 家族・職員 1000 円
子供無料とすることで同意された。
- (2) 地域医療部担当理事より、「平成 26 年度学校医等各種報酬および予防接種委託料(提示案)」による市町村からの要望が紹介された。

11月定例理事会

平成25年11月26日(火)

西多摩医師会館

[出席者：横田・鹿児島・野本・江本・宮城・近藤・岩尾・小林・西成田・朱膳寺・安部・奥村・大堀・中野]

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会

1. 都医からの伝達事項

1. 「国民医療を守るために総決起大会」への参加依頼について

「国民医療を守るために総決起大会」
日時：平成 25 年 12 月 6 日（金）14:00 ~ 15:00
場所：日比谷公会堂
2. ハーバード大学公衆衛生大学院武見プログラム 30 周年記念シンポジウム
開催について

ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム 30 周年記念
シンポジウム
日時：平成 25 年 11 月 23 日（土）14:00 ~ 17:00
場所：日本医師会大講堂
3. 「新型インフルエンザ発生時の住民接種の手引き（暫定版）」について
接種順位の決定方法 対象者を 4 区分に分類

(①医学的ハイリスク者 ②小児 ③成人・若年者 ④高齢者)

接種方法の都の基本的な考え方

- ・地域会場での集団的接種が原則
- ・施設入所者・長期入院患者は、施設単位で接種
- ・例外的に在宅療養患者等への訪問接種を併用

4. 平成 25 年度新型インフルエンザ対策講習会の開催について

1回目 平成 25 年 12 月 11 日 府中グリーンプラザ本館

2回目 平成 25 年 12 月 12 日 フクラシア東京ステーション

5. 「糖尿病地域連携の登録医療機関」制度の開始について

6. 平成 25 年度東京都身体障害者福祉法第 15 条指定医講習会の開催について

7. 身体障害者認定基準（人工関節・ペースメーカー等）の見直しに関する協力の
お願いについて

障害種別	現 行	改 正 後
肢体不自由 (人工関節・人工骨頭)	関節に人工骨頭又は人工関節を用いている場合は、関節が全廃しているものとして取扱う。 股・膝関節 = 4 級（両側：3 級） 足関節 = 5 級	手術後の障害の状況を評価し、通常の上肢・下肢と同様の基準（筋力、可動域、ADL 等）により認定する。 股・膝関節 = 4 級、5 級、7 級、 非該当 足関節 = 5 級、6 級、7 級、 非該当
手心臓機能障害 (ペースメーカー、埋込型除細動器)	心臓に人工ペースメーカー、体内埋込型除細動器（ICD）等を装着している場合は、日常生活活動が極度に制限されるものとして、取り扱う。（すべて 1 級）	ペースメーカー等への依存の程度、日常生活活動の制限の程度を勘案し、認定する。 (1 級・3 級・4 級) 原則、植え込みから 3 年以内に再認定をする。 (1 級・3 級・4 級)

8. 平成 25 年度不要になった水銀血圧計・水銀体温計自主回収事業の結果報告について

9. 第 15 回「日本医師会 指導医のための教育ワークショップ」
(東京都医師会主催) の開催について

10. 平成 25 年 12 月 1 日現在の会員数調査・会員名簿調製依頼並びに
平成 25 年度会費減免・医賠責保険加入申請手続きについて

2. 地区医師会からの報告

1. 中央ブロック（当番：千代田区医師会）

①伊豆大島からの避難島民の受け入れについて

(中央区医師会)

②在宅医療緩和ケア研修会（東京都医療連携強化研修事業）の開催について
(小石川医師会)

2. 城東ブロック（当番：墨田区医師会）
3. 城西ブロック（当番：世田谷区医師会）
4. 城南ブロック（当番：品川区医師会）
①平成 25 年度城南五医師会連絡協議会
災害時医療への地区医師会の取り組みの現状実施報告について
(品川区医師会)
5. 城北ブロック（当番：北区医師会）
①第 18 回板橋区医師会医学会プログラム・演題抄録集について
(板橋区医師会)
6. 多摩ブロック（当番：北多摩医師会）
7. 大学ブロック（当番：昭和大学医師会）

(2) 各部報告

病院部 11月30日に開催予定の「西多摩地区医療介護連携フォーラム」について報告の後、基調講演者等への謝金支援について依頼があり、了承された。

(3) 地区会報告（各地区理事）

青梅市 11月21日青梅 CKD 勉強会を開催
福生市
羽村市
あきる野市 11月18日例会を開催
11月23日「あきる野市・東京都合同防災訓練」を行った。
瑞穂町
日の出町

(4) その他報告

- ・東京都医師会第3回救急委員会（11月18日 小山英樹委員）
 1. 会長諮問事項について
 2. 病院・診療所等の防火体制に係る実態調査の実施について
 3. 救急搬送時間の短縮に向けた迅速な受け入れ連絡について
 4. 平成 25 年度東京都・あきる野市合同総合防災訓練について
 5. 東京都災害拠点連携病院の指定について
 6. 東京消防庁救急相談センターについて
- ・100周年記念誌の進捗状況について、鹿児島副会長より報告

【2】報告承認事項

(1) 入・退会会員、会員異動について

— 承認 —

【3】協議事項

(1) 「管内市町村国保担当主務者との懇談会」の開催日程について

標記について、今年度当番の青梅市より1月30日または1月31日のいずれかに開催したく、当医師会への調整依頼があり、協議された。担当理事等のスケジュールにより1月30日の開催が提案され、決議された。

— 可決承認 —

会員通知

- 会報11月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（11/6.11/7.11/15.11/20.11/27. 11/29.12/3.12/5.12/11.）
- 公立阿伎留医療センター医局講演会（11/25.12/19）
- 公立福生病院症例発表講演会（11/25）
- 脳卒中医療連携症例検討会（11/13）
- 第17回在宅医療連絡会（11/11）
- 産業医研修会（2/8 帝京大学医師会）
- ノ (12/14 東京都医師会)
- ノ (12/7 町田市医師会)
- ノ (2/15 杉並・中野・新宿区医師会)
- ノ (3/15.16 日本大学医師会)
- 青梅市立総合病院より電子カルテシステムの停止に伴う患者受入体制への協力について（依頼）
- 忘年クリスマス会御案内（12/4）
- 武見敬三国政報告会（11/22）
- 病院・診療所等における防火・防災対策について
- 平成25年度認知症サポート医養成研修について
- 大腸がん検診従事者講習のお知らせ
- 胃がん検診X線撮影従事者講習会のお知らせ
- 乳ガン検診従事者講習会のお知らせ
- 平成25年度新型インフルエンザの診療に関する研修
- 平成25年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」の追加開催について
- 健康づくりシンポジウム 肺の健康を考えよう
- 第2回日本プライマリ・ケア連合会会合
- 公立阿伎留医療センターより電子カルテ等 医療情報システム更新に伴う救急患者の受入休止について
- 訃報（秋川病院 植田宏樹先生 ご母堂様）
- 訃報（三枝襄二先生）
- 平成26年新年賀詞交歓会御案内（1/25）
- 青梅市立総合病院放射線科外来（CT・MRI 検査）の運用方法について
- 西多摩医師会100周年記念誌名簿について
- 第12回西多摩臨床報告会のご案内及び演題募集について
- 平成25年度第3期会費請求書
- 第29回西多摩学校保健連絡協議会（1/23）の開催について
- 乳がん検診を受けましょう
- 子宮頸がん検診を受けましょう
- 第21回西多摩三師会市民公開講座（2/22）
- 細胞診従事者講習会（12/21・1/25）
- 平成25年度日本医師会「認定産業医」新規申請について（第5回/12月受付分）
- 東京都エイズ予防月間ポスター
- 西多摩保健所だより
- ポスター「親医療証をお持ちの方へ」の掲示について
- 医療従事者肝疾患研修会（1/19）
- インフルエンザ対策普及啓発ポスター
- 「日医生涯教育認定証」送付について

医師会の動き

平成25年12月20日現在

医療機関数	200	病院	30
		医院・診療所	170
会員数	555	正会員	211
		準会員	344

会議

- 11月11日 在宅医療連絡会・委員会
- 12日 定例理事会
- 14日 在宅難病訪問診療（青梅）
- 26日 定例理事会
- 12月10日 定例理事会
- 12日 第3回西多摩地域糖尿病医療連携検討会
- 20日 会報編集委員会
- 24日 定例理事会

講演会・その他

- 11月 2日 西多摩医師会館完成祝賀会
- 2日 糖尿病教室in羽村・福生・瑞穂
「糖尿病とはどのような病気か」
植木彬夫医師
「糖尿病と腎臓病」
渡邊妙子医師
「食事療法 効果的で無理なく続く」 布川管理栄養士
「運動療法 楽しく安全で高齢者も」 小池トレーナー
- 6日 学術講演会
【症例検討】
1. 「息切れ、浮腫のため紹介頂いた高血圧患者」
青梅市立総合病院 循環器内科
古浦 賢二 先生
【特別講演】
演題：「心不全 up-to-date」
講師：榎原記念病院
副院長 吉川 勉 先生
- 7日 保険整備委員会
- 7日 学術講演会

演題：「心房細動マネージメントのポイント

講師：国家公務員共済組合連合会

立川病院

病院長 三田村 秀雄 先生

9日 多摩医学会

9日 糖尿病市民公開講座

「糖尿病と上手くつきあうために」

(1)糖尿病と上手くつきあうために
糖尿病患者会「梅の会」
会長 内田正明氏

高村内科クリニック「もろこし会」会長 遠藤道子氏

(2)糖尿病専門医からのメッセージ
青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科部長 関口芳弘先生

(3)眼科専門医からのメッセージ
かごしま眼科院長

鹿児島武志 先生

(4)腎臓専門医からのメッセージ
青梅市立総合病院 腎臓内科部長 木本成昭先生

(5)心臓専門医からのメッセージ
青梅市立総合病院 心臓カテル室長 清水茂雄先生

(6)歯科医師からのメッセージ
西多摩歯科医師会副会長 吉成歯科医院院長 吉成勝海先生

13日 西多摩地域脳卒中医療連携症例検討会

「平成24年度西多摩地域脳卒中医療連携アンケート調査結果から見えること」

検討会座長 小机 敏昭 氏

1. 「脳卒中患者の自動車運転再開と脳卒中後うつの関連について－アンケート調査を通して」」
公立阿伎留医療センター リハビリテーション科 岡田 真明 氏

2. 「より良い医療連携に向けた1つ

- のご提案ーもっと他の病院のことを知りたいと思いませんか?」
大久野病院 地域連携課
井上 昭則 氏
3. 「グループホームにおける看取りー医療・家族との連携
あきる台グループホーム秋川・滝山 松波希代子 氏
4. 「摂食嚥下療法で機能改善が見られた一例」
森谷歯科医院・菜の花クリニック歯科室 森谷 尊文 氏
5. 「意識障害のある脳梗塞患者に経口摂取を促した一症例」
青梅市立総合病院 南1病棟
佐藤 優衣 氏
6. 「日常生活動作に対して依存度が高い患者に対する退院支援ー在宅への退院調整を含めた関わり」
公立福生病院 4西病棟
矢島美沙子 氏
7. 「老健における脳卒中ご利用者の在宅復帰への取り組み」
介護老人保健施設 菜の花 リハビリテーション部門 中村 由美 氏
8. 「自宅退院後の介入により、生活レベルが改善した症例」
羽村三慶病院 リハビリテーション科 佐藤 文雄 氏
9. 「在宅療養を支えるための看護師とリハビリスタッフ間の連携の在り方について」
梅の園訪問看護ステーション
野口 豊 氏
- 15日 学術講演会
講演①：「実地医家におけるアピキサバンの処方経験
(医社)永寿会 三鷹中央病院 循環器内科 部長 上ノ畑 真先生
講演②：「心房細動患者において最も大切なことは」
- 東邦大学医学部 内科学講座循環器内科学分野
教授 池田 隆徳 先生
- 20日 学術講演会
【一般講演】
演題：「エゼチミブの使用経験」
講師：青梅市立総合病院 循環器内科 部長 清水 茂雄 先生
【特別講演】
演題：「鋭敏なリスクマーカーとしてのSmall dense LDLコレステロール」
講師：昭和大学医学部内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科部門
教授 平野 勉 先生
- 21日 法律相談
- 27日 学術講演会 新しい抗凝固療法を考える会
【基調講演】
演題：「新規経口抗凝固薬時代の心房細動マネージメントー今、アブレーション治療は必要かー」
講師：国立病院機構 災害医療センター 循環器内科 医長 高橋 良英 先生
【特別講演】
演題：「NOACと心房細動アブレーション」
講師：東京医科歯科大学 不整脈センター 教授 平尾 見三 先生
- 28日 糖尿病教室
- 29日 学術講演会
演題：「私の経験した症例あれこれーヘルペス関連疾患を中心にー」
講師：聖隸三方原病院 副院長 皮膚科部長 白濱 茂穂 先生
- 30日 西多摩地域医療介護連携フォーラム
- 12月3日 学術講演会
演題：「子どもから高齢者まですぐに役立つ経口補水療法」
講師：神奈川県立保健福祉大学

- 保健福祉学部栄養学科
教授 谷口 英喜 先生
- 4日 忘年クリスマス会
- 5日 学術講演会
演題1：「内服とカテーテル治療で改善を認めた肺高血圧症の一例」
講師：青梅市立総合病院 循環器内科 医長 鈴木 麻美 先生
- 演題2：「肺高血圧症の診断法－身体所見の重要性－」
講師：杏林大学医学部 循環器内科 教授 佐藤 徹 先生
- 9日 保険整備委員会
- 11日 学術講演会 西多摩COPD Forum
演題：「COPDの治療戦略～LAMA/LABAのImpact～」
講師：東京医科大学 呼吸器内科 教授 濑戸口 靖弘 先生
- 19日 法律相談

役員出張

- 11月 9日 多摩医学会
- 15日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会
- 16日 多摩地区医師会懇話会
- 20日 生活保護法指導立会
- 22日 武見敬三国政報告会
- 12月20日 東京都医師会地区医師会長連絡協議会

【入会会員】(正会員)

氏名 三井 久男
勤務先 (医社) 三清会 小作クリニック
出身校大学 新潟大学 昭和46年3月卒

【退会会員】

氏名 加藤 出
勤務先 (医社) 三清会 小作クリニック

氏名 川田 雅昭
勤務先 (医社) 久遠会 西東京ケアセンター

氏名 古川 千湖
勤務先 (医財) 岩尾会 東京海道病院

【管理者変更】

(医社) 三清会 小作クリニック
(新) 三井 久男
(旧) 加藤 出

【法人代表者変更】

(医社) 三清会 小作クリニック
(新) 三井 久男
(旧) 加藤 出

(医社) 三清会 青梅かすみ台クリニック

(新) 三井 久男
(旧) 加藤 出

【廃業】

氏名 三枝 裏二 (死亡)
施設名 三枝産婦人科

表紙のことば**『西多摩医師会館』**

念願の西多摩医師会の新会館が完成しました。大きなマンションの隣で、あまり目立ちませんが、写真のように立派な建物です。

御披露目前に早速、糖尿病教室、CKD勉強会が開催され、利用されました。

今後も、有効に活用され、医師会員ならびに地域住民が気軽に集まれる会館になって欲しいです。

森本 晉



あとがき



明けましておめでとうございます。昨年は6月に100周年記念式典が行われ、10月に新医師会館が完成し、西多摩医師会には大きな節目の年となりました。皆様方にとってはどのような1年だったでしょうか？

さて、昨年の「今年の漢字」には「輪」が選ばれました。6年後の東京五輪開催決定が大きく影響しているのは言うまでもありませんが、今年は冬季オリンピックが2月に行われます。日の「丸」を掲げるべくアスリートの方々には頑張ってもらいたいところです。6月には世界的に人気の「球」技であるサッカーのW杯がブラジルで行われます。前回同様日本は予選を突破して決勝トーナメントに進出できるのか期待がかかります。

一方、あまり喜ばしくない話題としては何と言っても「円」がらみで消費税の引き上げでしょう。来年度の診療報酬改定の基本方針には消費増税への対応を行うと記載されていますが医療機関の負担増も否めないでしょう。「環」太平洋戦略的経済連携協定（TPP）の行方も気になるところです。混合診療が解禁となれば保険診療が危うくなるのでは多くの識者が警告しています。悪い意味で日本の医療の転換期とならないことを願います。

あれこれ言いましたがこれを書いているのはまだ12月なので鬼に笑われてしまいます。ただ、後で振り返ってみて笑って過ごせる年であればそれはそれで良いのかもしれません。

土田大介

西東京医師協同組合 第31回 囲碁大会ご案内

日 時：平成26年2月23日（日）午前9:30集合
10:00競技開始

会 場：医師会館 TEL 042-524-6411

会 費：5,000円

参加資格：医師会会員及びその家族

競技方法：スイス方式 1局1時間30分以内
1日4局打ち

賞 品：競技順位に関係なく全員に渡ります。

懇親会：同一場所にて5時より行います。

参加ご希望の方は2月3日（月）までに西多摩医師会へお申込下さい

■ 競技ルール

1. 第1局目に30分以上遅刻の場合は不戦敗とします
2. 対戦相手は、同勝ち数者の抽選にて決めさせていただきます
3. 同段、級者の対局はニギリ、コミ6目半とします
4. 他段、級者との対局は、1段、級差1子とし、ジ

ゴは双方半勝とします

5. 1局1時間30分以内で終局させていただきます。そのため対局が始まって1時間20分を過ぎても終局しないときは、その後1手30秒の秒ヨミとします
6. 順位はスイス方式で決めさせていただきます。その方法は下記の通りとします
 - イ. 「勝ち試合数の多い選手」を上位とします
 - ロ. 同勝ち試合数の場合は「対戦相手のポイント数の多い選手」を上位とします
 - ハ. 勝数、ポイント数とも同じ場合は「勝って戦った相手のみのポイントの多い選手」を上位とします
 - 二. 勝数、二種類のポイント数でも同数は「その当事者間同士が対戦していた時はその勝者」を上位とします
 - ホ. 最後は生年月日により年齢が上の先生を上位とさせていただきます。申し込みに際し生年月日の記入をお願いいたします

お知らせ

事務局より **お知らせ**

保険請求書類提出

平成26年2月（1月診療分）

2月7日（金） 正午迄

平成26年3月（2月診療分）

3月7日（金） 正午迄

法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。
お気軽にご相談ください。

◎相談日 **1月16日（木）**

2月20日（木）

3月20日（木）

◎場所 西多摩医師会館和室

◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）

◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃報

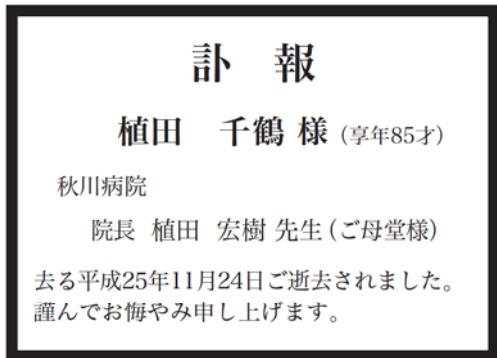
羽村市 三枝産婦人科

三枝 裏二先生

昭和5年6月28日生（享年83才）



去る平成25年11月23日 ご逝去されました。謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。



社団法人 西多摩医師会

平成26年1月1日発行

会長 横田卓史 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会	奥村 充	近藤 之暢	鹿児島武志	鈴木 寿和	馬場 真澄	菊池 孝
		土田 大介	渡邊 哲哉	松崎 潤	湯田 淳	進藤 幸雄
	松本 学					

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康が21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……

(株)武藏臨床検査所

食品と院内の環境を科学する

F・Sサービス〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659

[SIMPLE] × [SPEEDY]



日々の診療を支える 電子カルテ、「クオリス」。



＜製品の特徴＞

- わかりやすい・操作しやすい画面レイアウト
- 診療アラーム機能搭載
- 使いやすい
- 外注検査のオンライン（指定検査会社）
- 安心のサポート体制、セキュリティ構成



株式会社**ビー・エム・エル**
インフォメーションセンター
TEL: 049-232-0111



みなさまと
ともにいます。

人に、笑顔を届けます。

仕事の、そばにいます。

街に、喜びを広げます。

たましんは、

いつもみなさまとともにいます。

これまでも、これからも。



多摩信用金庫